

離島からの挑戦

「世界ジオパーク」登録をめざして

野辺一寛

隠岐の稀有なる自然、地域資源を活かしたエコツーリズムなどの活動が評価され、「日本ジオパーク」に認定された。次なる目標は「世界ジオパーク」への認定登録。隠岐の自然、歴史や文化を世界に向けて紹介すると同時に、島の子どもたち
に誇りを持って隠岐を伝えてほしい、そんな願いも込められている。

「日本ジオパーク」への認定

平成二十一年一〇月二八日の夕方五時半、教育長の机の上
に置かれた電話が鳴ると、「日本ジオパーク」認定の結果
連絡を待つ人でざわめいていた室内が静まりかえり、電話
の対応をした教育長の笑顔と、「ありがとうございます」と
という声で一斉に拍手がわき起こりました。

目標はあくまで「世界ジオパーク」への登録であって、

日本ジオパークの認定はその通過点であり、登録は間違い
ないと自信を持ってはいましたが、いざ決定の連絡を待つ
間はとても緊張していました。

今回の認定については、ただ単に日本ジオパークへ登録
されたということではなく、隠岐が持つ地域資源の重要性
が評価されたのとともに、これまで行ってきた活動に対し
ての評価が具体的に表れたものであるということで、私に
とっても感慨深いものでした。

平成一三年度から取り組んだ住民と一緒になったまちづ

くり、そして隠岐なら
ではの地域資源を活か
したエコツーリズムの
取り組みを評価してい
ただいたのです。

平成一六年度から取
り組んだエコツーリス
ムの活動は、当初「エコ
ツーリズムって、何？」
「そのエコツーリズム
で何人の観光客が来る
の？」と聞かれ、エコ

ツーリズムについての説明やその可能性についての説明は
できるのですが、それではいったい何人の観光客が隠岐に
来るのかについては具体的な数字をあげることができない
ため、観光事業者からはあまり相手にされない状況でした。
こうした状況の中、隠岐の可能性を信じ活動を継続した
結果、隠岐を訪れるエコツアー客は少しずつですが年々増
加し、旅行代理店からもエコツアー的要素を盛り込んだ旅
行商品づくりが求められるようになってきました。最近聞
いたところによると、カナダの州立公園を訪れる日本人観
光客の方たちが隠岐のことをよく話題にしているという嬉
しい知らせもありました。

ジオパークとは

地球科学的に見て貴重な特徴を有する地域を指定し、保全や科学教育、ツーリズムに利用しながら地域の持続的な経済発展を目指す取り組み。平成16年にユネスコの支援により世界ジオパークネットワーク（GGN）が発足し、日本を含む19カ国63地域が登録されている。日本では同20年に国内の認定機関として日本ジオパークネットワーク（JGN）が発足、隠岐を含め11地域が認定されており、同21年には洞爺湖・有珠（北海道）、糸魚川（新潟県）、島原（長崎）の3地域が「世界ジオパーク」に認定された。

「風待ち海道俱樂部」の結成

隠岐は江戸時代中期から明治三〇年代まで、北前船の風待ち港として栄えていました。明治二五年に隠岐を訪れた小泉八雲（ラフカディオ・ハーン。小説家・新聞記者）は、「西郷は誠に驚くべき町であった。大きな漁村くらいにしか思っていないが、境（港）よりはるかに大きく整っていて、あらゆる点でずっと近代化されていた。長い通りいっぱい立派な店が並び、見事な公共の建物が建ち、見るからに商業が栄えている都市であった」と、その繁栄ぶりに驚嘆の声をあげています。

昭和三八年に大山隠岐国立公園に指定された隠岐諸島は、その豊かな自然環境と、後鳥羽上皇や後醍醐天皇などの配流地という歴史的背景によって観光地として賑わってきましたが、近年のニーズの変化や、離島という地理的条件による旅費の高さから観光客は年々減少しており、平成一〇年ごろには二三万人といわれた観光客数も現在では一四万人を切るような状況となっています。

また、島の経済を支えてきたもう一つの柱である公共事業も、財政状況の悪化から事業費が削減され、島の経済は衰退の一途をたどっています。こうした状況にともない、島の玄関口である西郷港周辺の商店街には空き店舗が目立

つようになり、観光地としての景観も失われてきています。沈みゆく島をなんとかしようと、これまでもさまざまに団体などが商店街の活性化を目指して取り組んでいましたが、成果が得られず、「何をやってもだめ」「やってもしようがない」といった諦めムードが広がり、「島が沈んで行くのを見守るしかない」という声も聞かれるようになっていました。

このような状況に対して隠岐の島町では、住民参加型の公共事業を推進し、隠岐の島町の将来像を住民と一緒に描くことで沈んだ雰囲気を一掃することを考え、情報の共有化と、住民が参加しやすいワークショップ形式による事業計画の作成に取り組みました。

この活動を通して、「隠岐ならではの歴史・文化・自然を活かした地域づくりを行おう」「行政は行政、民は民といったまちづくりではなく、官も民も一緒になってまちづくりを行おう」という意識が高まり、平成一五年五月に官民一体となったまちづくりグループ「風待ち海道倶楽部」が誕生しました。

—— エコツーリズムへの取り組み

隠岐には、配流された後鳥羽上皇や後醍醐天皇だけではなく奥深い歴史資産や、自然の造形美だけではない優れた

環境資産が残されています。

隠岐はユーラシア大陸の縁辺であった時代、湖の底であった時代、海の底の時代、島根半島の先端の時代とその形を変えながら、いまから約一万年前に現在のような離島になりましたが、この小さな島でそれぞれの時代の証拠となる地質現象を凝縮して観察することができます。

また、隠岐を代表する岩石であり、石器時代に矢じりとして利用された黒耀石の産地は国内で七〇ヶ所ほど知られていますが、矢じりとして使用されたのは隠岐を含めて六ヶ所ほどしかありませんでした。隠岐産の黒耀石が中国地方を中心とした国内はもとより、約二万年前には朝鮮半島やロシア沿海州地方まで運ばれていたことは、

隠岐産の黒耀石が良質であったため古代の生活には欠かせない資材であったことが想像されるとともに、当時の盛んな人流や文化交流の道も見えてきます(図1参照)。

隠岐のもう一つの魅力として、植物の多様

のべかずひろ 野辺一寛

昭和37年島根県隠岐郡都万村(現隠岐の島町)に生まれる。中学を卒業後、隠岐を離れ大手建設会社に入社。平成6年にUターンし西郷町(現隠岐の島町)建設課に勤務。公共事業のワークショップをきっかけとして、官民協働のまちづくりグループ『風待ち海道倶楽部』を設立し、隠岐ならではの地域資源を活かしたエコツーリズムを推進している。同21年からは隠岐の島町教育委員会に配属され、生涯学習課文化振興係長(隠岐ジオパーク推進協議会事務局)を務める。

各時代の証拠となる地質現象

- 隠岐片麻岩：2億5000万年前（現在の大陸が一つになってパンゲア大陸が形成された時代）に変成作用を受けて形成された岩石。この中には32億年前の年代を示すジルコンという鉱物が含まれている。
- グリーンタフ：緑色凝灰岩と呼ばれる堆積岩であり、この地層からは淡水性の貝化石やワニの歯の化石なども見つっている。これらの化石の存在によって、1800万年前の隠岐は湖または川の底であり、亜熱帯気候であったことが推測できる。
- 珪藻土：七輪の材料や住宅の壁材としても利用されている珪藻土は、珪藻プランクトンの死骸が堆積した地層であり、1500万年前の隠岐は深い海の底であったことが推測できる。

図1 隠岐産黒耀石の傳播



性があります。隠岐は島の成り立ちと対馬暖流の影響を受けることから、生物の北限の地でもあり、そして南限の地でもあります。隠岐の特徴として、北方系・南方系・高山性・低地性・大陸系・氷河期時代の生き残りの植物が共存し、北方系のモミノキに南方系の植物であるナゴランが生じて自生するなど、他の地域では見ることのできない不思議な島でもあります。

隠岐はいまから約一万年前に現在のような離島となり、地理的変異や進化の過程において隠岐固有の生物も生まれました。他の離島に比べると固有種の数も少なく、生物学的に近年まであまり注目をされなかった島ですが、他の島より若い島であるがゆえに、この一万年の経過が生物にどのような変化を与えたのかなど、進化の過程を探るうえでも貴重な島でもあります。

平成一七年に隠岐の固有種であるオキサンシヨウウオが世界の希少種として選定されたのは、独自の進化の過程がオキサンシヨウウオに見られるからなのです。

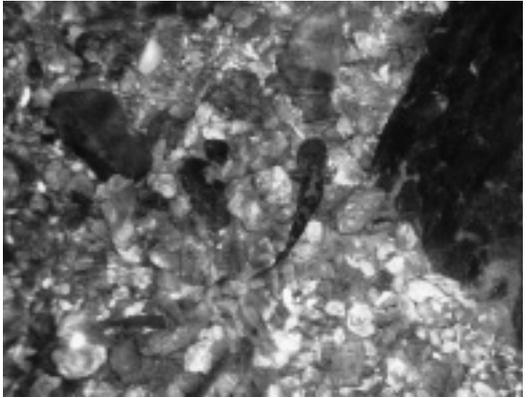
このように、隠岐にはまだまだ知られていない歴史や自然環境が残されていて、近年のエコツアーに代表されるような体験型、より専門性の高い修学的観光へ対応できる資源が豊富にあるのですが、そのことが知られていないし、活用されていないのです。

風待ち海道倶楽部では、オンリーワンであることを目指し、後鳥羽上皇や後醍醐天皇の遺した歴史的資源に頼ってきた観光から、隠岐ならではの歴史・文化・自然を活かした新たな観光形態を構築し、観光振興につなげたいという願いから隠岐の地域学講座「風待ち



携帯電話を利用したナビシステム画面。

高山性植物オオイワカガミの葉。隠岐では海岸の遊歩道で見ることができる。



隠岐島後の固有種・オキサンショウウオ。本来、湖や池に棲むタイプのサンショウウオが隠岐では溪流部に棲むようになった。水に流されないよう指の先に小さな突起ができ、水の抵抗を少なくするためにエラの部分が細くなっており、サンショウウオの進化からも隠岐諸島の成り立ちを推測することができる。

「風待ち海道エコツーリズム大学」自然環境陸上コースの様子。



「風待ち海道エコツーリズム大学」の東京大学での出張講座。



隠岐のガイドブックとルールブック。

隠岐諸島のエコツアー

平成 21 年 9 月から、隠岐ジオパーク推進協議会の構成団体である風待ち海道倶楽部、隠岐笑店、隠岐観光連絡協議会、隠岐汽船との協働による隠岐の不思議な植物分布を観察するエコツアーやジオサイトツアー、シーカヤックツアーなどの旅行商品が販売されている。たとえば、9 月から 10 月にかけて 2 回実施された「隠岐ジオツアー」では、松江市七瀬港を集合解散とする 2 泊 3 日のコースにそれぞれ約 10 名ずつが参加、島のなりたちや生態系を解説するガイドメンバーの案内で島後のトカゲ岩や乳杉、島前の摩天崖など、隠岐諸島全体の自然・文化に関するポイントをめぐっている。



海道エコツアーリズム大学」を平成一六年度から開講しています。

エコツアーリズム大学には、歴史学科、自然環境学科陸上コース、自然環境学科海洋コースの三講座を設け、五歳から七五歳まで幅広い年齢層の方が参加しており、有償ガイド育成のための特別講座なども行っています。

隠岐に住む方を中心として行っている講座ですが、平成一七、一八年には隠岐の出身者である方を対象とした講座を東京大学、関西大学でも開催しており、平成一八年度に

はエコツアーリズムの先進事例として長崎県立大学でも講座を開催しています。

また、エコツアー商品の造成を目指して、関東圏・関西圏の旅行代理店などでも隠岐学講座を開催しています。

これまで行ってきたエコツアーリズム大学の講座資料や、地域資源調査結果をまとめた隠岐のガイドブック『OKI まるごとミュージアムブック』、ガイドマップ『OKI まるごとミュージアムマップ』（日本語・英語）を作成し、携帯端末を利用したナビシステムの構築を行っており、隠岐

の地域資源の情報発信と活用を図る一方で、隠岐の地域資源を守るためのルールブック『隠岐の自然を守るための参考書』を作成し、地域資源の活用と保全に取り組んでいます。

— 世界ジオパーク登録を目指して

これまで風待ち海道倶楽部が中心となってエコツーリズムによる地域振興・観光振興を目指して活動を行ってきましたが、平成二一年度からは隠岐諸島全体の具体的な目標として、ユネスコが支援を行う世界ジオパーク登録を目指した活動を行っています。

平成二一年六月一五日に設立した隠岐ジオパーク推進協議会（隠岐四町村および経済・観光・住民団体で構成）では、世界ジオパーク登録に先立ち、日本ジオパーク登録を目指して申請書を提出しており、一〇月二八日に行われた日本ジオパーク委員会において隠岐諸島の登録が認定されました。

平成二一年九月一四日から一六日にかけて行われた日本ジオパーク委員会による現地視察では、隠岐の地質資源や植物の多様性など



地域資源活用シンポジウムの様子。



日本ジオパーク委員会の隠岐現地視察。

地域資源に対して高い評価を得ることができましたが、それ以上に、視察された委員からは隠岐における活動に対して、「他地域の手法となりうる」といった意見もいただきました。

隠岐ならではの歴史・文化・自然を保護しながら地域振興を図るエコツーリズムの取り組みが専門家からも認められたのです。

今後は外国語対応なども含め、アカデミックな隠岐を一般の方にも分かりやすく紹介することによって、平成二三年度の世界ジオパーク登録を目指してさらに活動を推進していきたいと考えています。

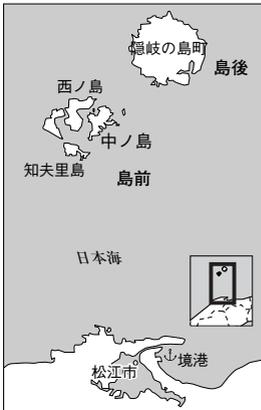
—— 誇りを持って隠岐を伝える

隠岐ジオパーク推進協議会では、隠岐地域の活性化を目的として世界ジオパーク登録を目指した活動を行っています。世界ジオパーク登録には、「誇りを持って隠岐を伝えてほしい!」という願いも込められています。

隠岐には高校までしかなく、高校を卒業した島の子どもたちはそ

おきしよとう 隠岐諸島 data

島後、西ノ島、中ノ島、知夫里島の4島(4町村)から成る。島後(隠岐の島町)の人口は16,069人(平成21年12月現在、以下同)。海岸全域ほかが国立公園に指定されている。漁業のほか、稲作などの農業も盛ん。西ノ島の人口は3,325人。島後に次ぐ2番目に大きな島。外海側は海蝕断崖が連続し、なかでも国賀海岸は隠岐を代表する景観としても有名。中ノ島の人口は2,377人。民間団体「隠岐自然村」がさまざまなエコツーリズムを企画・運営している。知夫里島の人口は660人。隠岐の最南端に位置する。標高325mのアカハゲ山周辺に牛馬が放牧されているさまも、この島ならではの景観。



のほとんどが隠岐を離れ進学や就職をします。しかしながら、世界的にも誇れる資源が数多くあるにもかかわらず、本島の隠岐の魅力について学ぶ機会が少ないため、島の子どもたちは「自信を持って隠岐について説明する(伝える)」ことができません。

世界的な登録地になることによって、隠岐に住む私たちが隠岐の価値を再認識し、隠岐の出身であることへの誇りを持って隠岐を紹介できるようにしてほしいと考えています。

そうすれば、島を離れた子どもたちもいつかは隠岐に帰り、隠岐の活性化を担う人材となってくれるものと期待しています。

誇りを持って隠岐を伝える——。世界ジオパーク登録にかけるもう一つの想いです。